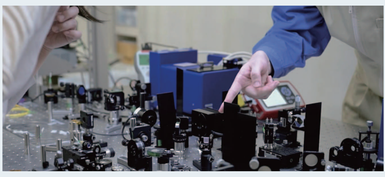
研究・開発活動

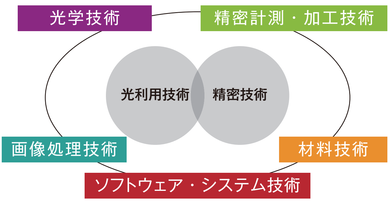
ニコン独自の視点と研究・開発で、新たな未来や価値を創り出す。

中期経営計画で示した2030年のありたい姿に向けて、お客様の欲しいモノやコトをお客様にとって最適な方法で実現していくために、必要となる研究・開発の計画も策定し、実行していきます。既存事業の製品技術、生産技術、ニコンを支える光学技術などの要素技術だけでなく、成長ドライバーとなる事業の実現に必要な研究・開発にも各組織が連携しながら取り組んでいきます。



ニコンを支える基礎技術

既存事業の強化や新規事業の創出には、長期的な視点に立った基礎的な研究・開発活動が欠かせません。そのためニコンでは光利用技術と精密技術をベースに光学技術や精密計測・加工技術、画像処理技術、材料技術、ソフトウェア・システム技術など幅広い分野の研究・開発を展開しています。



研究・開発の成果を紹介する Nikon Research Report

ニコンは、コア技術の光利用技術と精密技術をベースにした研究・開発の成果を技報「Nikon Research Report」で発信しています。新製品に盛り込まれた技術や学会などの機関から高い評価を得た技術を中心に、ニコンならではの高度な技術力と企業価値をアピールしています。詳細は背表紙に掲載しているURLからホームページをご覧ください。

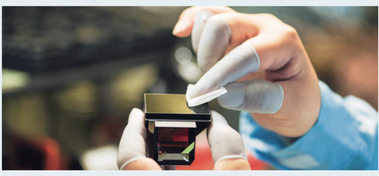
技術戦略委員会

ニコンが注力すべき新領域の開拓や既存事業の競争力向上につながる技術戦略を明確にし、技術開発の方向性と重点投資分野を決定するとともに全社の中長期計画と連動させるための委員会です。2022−2025年度中期経営計画にて設定した主要事業および戦略事業に必要な技術開発を進め、二つの価値提供領域「インダストリー」と「クオリティオブライフ」での課題やニーズに積極的に応えつつニコンの長期的な成長を目指します。

生産活動

技術の集約、生産性の向上。
シナジーで進化するものづくり。

「お客様重視」「品質優先」を基本としたものづくりで、生活の豊かさと便利さに貢献することを目指しています。この基本を意識しながら、ニコングループ全体の生産体制の再構築や生産性の向上を推進します。また、各事業部に横串を通す組織として、先端技術開発本部、光学本部、次世代プロジェクト本部、生産本部を設置し、事業部を越えた全社最適視点のものづくりで、新たな付加価値を創造します。



ものづくり体制

ニコングループ全体の生産性の向上を目指し、さまざまな改革を進めています。2017年に光学ユニットの生産機能を栃木ニコンに集約。2021年には映像事業部より仙台ニコンを、半導体装置事業部より栃木ニコンプレシジョンを、2023年にはFPD事業部より宮城ニコンプレシジョンを生産本部へ移管し、国内すべての生産子会社が生産本部傘下となりました。これにより、BtoBおよびBtoCで培ったさまざまな技術やノウハウを融合し、新たな価値を創造するとともに、全事業部を俯瞰した生産関連リソースの有効活用を実現します。また、デジタルマニュファクチャリングを活用し、ニコングループ全体の生産性の向上も推進します。

ものづくり技術

ニコンのものづくりを支えるコア技術の継続強化と、将来の製品やサービスにつながる差別化技術のつくりこみを行います。ニコンの技術の源泉となるのは「光利用技術」と「精密技術」です。「光利用技術」と「精密技術」をベースに光学技術や精密計測・加工技術、画像処理技術、材料技術、ソフトウェア・システム技術など幅広い分野の研究開発を長期的視点で行っています。これらの技術や技能の伝承にも力をいれ、継続的に価値ある製品やサービスを提供していきます。

QCD向上への取り組み

すべての生産拠点で「Made by Nikon」の世界同一品質を実現できるよう、共通の品質マネジメントシステムと生産技術を導入・強化しています。また、品質(Quality)だけでなく、価格(Cost)、納期(Delivery)についてもお客様のニーズに的確に応えるため、開発・設計、調達、製造、品質など、さまざまな観点から改善活動を進めています。